



## おばあちゃんの背中

震災から四年半を過ぎました。ふと、今まで心の中で唱えていた言葉を最近口にしなくなっている事に気がきました。

震災後の混乱の中、全く経験した事のない事に関わり右も左もわからない状態で取り組んできました。不安になった時にいつも自分に言い聞かせてきた言葉、「あのおばあちゃんの孫だもん、大丈夫、大丈夫！」おばあちゃんは、早くに亡くなったおじいちゃんが残した会社をずっと守ってきました。幼い頃の私は、信念を持ち漂としてる姿に物怖じしていました。なんとなく近寄りたく怖いなと思っていました。でも自分も大人になって社会に出て十数年経ち、いつの間にかおばあちゃんに対する気持ちは尊敬の念に変わっていました。

それから数年後、東日本大震災が起きました。浜辺の近くにあった会社とともに、おばあちゃんは波にのまれてました。見付かったのは震災から5日程経ってからです。

自分に何が出来るだろうか、その何かをする事が亡くなったおばあちゃん達の供養になるだろうかと思い、被災地支援をして下さってる方と一緒に活動を始めました。仕事とは全く違う活動。いろいろ戸惑いながら手探り状態でした。思うように事が運ばずに気持ちが折れそうになる時も多々ありました。そんな時に自分自身に言い聞かせてきた言葉、それが「あのおばあちゃんの孫だもん、大丈夫！大丈夫！！」自然と口にしてた言葉でした。亡くなって側に居なくても、ずっと励まされてきました。おばあちゃんの後姿は私の心の中にしっかりと生き続け、そしてずっと支え続けてくれました。今一番伝えたい言葉、「おばあちゃん、ありがとう」。大好きなおばあちゃんに心から感謝しています。ありがとうという言葉、いつか伝えようと思っているうちに永遠に伝える事ができなくなる事もあります。同じような経験をした方は実は多いのでは？人はそんな場面に遭遇しないとなかなか大切な事に気が付かない生き物かもしれません。当たり前だと思っている日常の中にある幸せを、感謝して大切に生きていける人になりたいです。日々さげなく「ありがとう」と言えるよう、これからおばあちゃんの背中を追いかけていきたいと思います。(宮古市出身 Y)

## 後世に語り継ぐ

～津波到達地点～



この高さまで津波到達

宮古市役所前の歩道橋

陸前高田市広田町

## 故郷の祭り



私は、どうして毎年七夕祭りに参加するのだろうか。今年はそれを強く感じる七夕だった。

8月初旬、七夕作りを取材した。取材に協力頂いたのは、大町祭組でした。作業は5月からほぼ毎日、各々の仕事が終わった後に集まり、夜遅くまでの作業が続く。当然、どの人にも生活があり、仕事があり、その上で七夕作りをする。睡眠時間を削り、プライベートの時間を割いて七夕を作る。そこには、苦勞がある。しかし、続けていくことの意味、存続させていくことの意義。維持していくことの情熱。がそこには存在する。

作業の手を休めずに、こんな話を聞いた。昔は七夕作りをしながら、地域の中で先輩後輩の上下関係を学んだ。「この竹はまだ若い。どんな竹が望ましいか。どこからとって来る」といかに教えられた。震災後、浸水被害のなかった地区は、町内会が存続し、そのままの祭組が存在している。夕方、小・中学生が家々から集まりだし、笛や太鼓のお囃子の音が響きます。地域の大人たちがお囃子の指導をしたり、七夕作りの作業を行う。そんな様子をうらやましいと思いつつ、「子どもたちに教えてあげればいいんだったら、教えれば七夕作りする人がいなくなるし」とジレンマがつきまとう。「七夕」を通して、今を生きている人たちは、先人の知恵、教えを学ぶ。「七夕」はそれぞれの地域の伝統の継承であり、さらに若い世代へのパトナツチなのである。

平成27年8月7日、震災から5度目の七夕。今年は、かさ上げ工事で立ち入りができなくなっていた場所を一部開放して行われた。旧大石沖～馬場前～大町～荒町～消防署前まで続く川原、館の沖付近を山車が練り歩いた。

震災前、店舗兼住宅のあった場所に近づいた時、ある人がそこで生活してきた人に、叫んだ言葉がとても印象的だった。「(太鼓) たたけ！」その言葉は、きっと空の上の人たちにも届いているからとそんな気持ちのこもった言葉だった。「来年は、(通るの) この上だから」とかさ上げされた上を指さした。

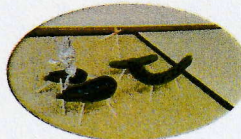
震災後、町内会が解散されたのと同時にいくつかの七夕祭組が解散している。七夕祭組のいくつかは有志で行われている。七夕はコミュニティーそのものでした。震災によって既存のコミュニティーを失いました。これから新しい街ができます。しかしそれは、既存の地区ではなく、七夕がどのような形で継承されていくのかわかりません。

「七夕」という存在は、亡くなった人たちも、生きている人たちも、帰ってくる場所であり、そこに生きて証そのものであり、それはまさしく「ふるさと」そのものなのです。

(陸前高田市出身 靴屋のゆきのちゃん)



## 精霊馬



お盆によく見るきゅうりとナスを使った馬と牛型の置物。

皆さんは、なんの為に作り、置くのかご存知ですか？この置物は、精霊馬(しょうりょううま)といい、ご先祖様などの霊があの世とこの世を渡るための乗り物の意味があります。馬は足が速いので早く霊をお迎えし、牛はゆっくりと名残を惜しんで霊をあの世へお送りするということです。また、地方によってはこの逆の考えもあります。

精霊馬の発祥時代は明確にはされていません。しかし、古くは旧暦7月15日のお盆の1週間前にあたる七夕の日に、お盆の準備として真狐(まこも)というイネ科の草で馬型の人形を作り、飾るといふ風習がありました。これが始まりとされており、その後この時期にとれるきゅうりと茄子が使われるようになりました。

作り方は簡単で、きゅうり・茄子・わりばしを用意し、わりばしを適度な長さにカットして、きゅうり・茄子それぞれにバランスよく刺して完成です。地域によってはナンテンの葉で耳を作り、馬にはとうもろこしのひげでしっぽを付けるなどするところもあります。

また、霊の乗り物として役目を果たしたあとの精霊馬は、丁寧に処分します。昔は川に流したり、土に埋めたりしましたが現在はそうすることも出来にくいので、半紙などの白い紙に包んでお清めの塩をふって丁寧に処分します。

最近は、色々アレンジした精霊馬をインターネットなどで見かけますが、大切なのはご先祖様への感謝の気持ちを忘れないことです。皆さんも次回のお盆に作ってみてはいかがでしょうか？

(ただっち)

## お知らせ

下記日程で、いのち新聞企画主催「お茶っこの会」～東日本大震災を語る会～を開催いたします。対象は震災で被災された方、それに関連してご家族を亡くされた方、ご支援いただいた方には今回は限らせて頂きます。

日時：平成28年2月28日(日) 13時～17時

場所：さくらホール(北上市)大アトリエ

「いのち新聞」へのお手紙や活動資金のご寄付ありがとうございました。

お問い合わせ先

F024-0024 岩手県北上市中野町2丁目28-23

株式会社 桜内「いのち」新聞編集部

☆お電話での問い合わせはご遠慮願います。

ご支援・ご寄付のご案内

北上信用金庫 東支店

預金種類 普通預金

口座番号 0103488

口座名称 いのち新聞 代表 笹原 留似子